

# 四半期報告書

(第197期第1四半期)

日本ペイントホールディングス株式会社

(E00892)

---

# 四半期報告書

---

- 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
  - 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。
- 

**日本ペイントホールディングス株式会社**

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	3
第2 【事業の状況】 .....	4
1 【事業等のリスク】 .....	4
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	4
3 【経営上の重要な契約等】 .....	6
第3 【提出会社の状況】 .....	7
1 【株式等の状況】 .....	7
2 【役員の状況】 .....	8
第4 【経理の状況】 .....	9
1 【要約四半期連結財務諸表】 .....	10
2 【その他】 .....	38
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	39

四半期レビュー報告書

確認書

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 2022年5月13日

**【四半期会計期間】** 第197期第1四半期(自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)

**【会社名】** 日本ペイントホールディングス株式会社

**【英訳名】** NIPPON PAINT HOLDINGS CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 取締役 代表執行役共同社長 若月 雄一郎  
取締役 代表執行役共同社長 ウィー・シューキム

**【本店の所在の場所】** 大阪府北区大淀北2丁目1番2号

**【電話番号】** 06-6455-9153

**【事務連絡者氏名】** 財務経理部長 出本 裕子

**【最寄りの連絡場所】** 東京都中央区京橋1丁目7番2号ミュージアムタワー京橋

**【電話番号】** 03-6433-0711

**【事務連絡者氏名】** コーポレートガバナンス部長 金森 博

**【縦覧に供する場所】** 日本ペイントホールディングス株式会社 東京本社  
(東京都中央区京橋1丁目7番2号ミュージアムタワー京橋)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第196期 第1四半期 連結累計期間	第197期 第1四半期 連結累計期間	第196期
会計期間	自 2021年1月1日 至 2021年3月31日	自 2022年1月1日 至 2022年3月31日	自 2021年1月1日 至 2021年12月31日
売上収益 (百万円)	222,678	284,096	998,276
税引前四半期(当期)利益 (百万円)	24,134	24,913	86,467
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益 (百万円)	16,342	18,072	67,569
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益 (百万円)	79,420	123,177	155,628
親会社の所有者に帰属する 持分 (百万円)	902,064	1,070,992	959,518
総資産額 (百万円)	1,871,406	2,355,742	1,955,083
基本的1株当たり 四半期(当期)利益 (円)	7.62	7.70	29.41
希薄化後1株当たり 四半期(当期)利益 (円)	7.62	7.70	29.41
親会社所有者帰属持分比率 (%)	48.2	45.5	49.1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△4,590	△5,690	67,428
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△85,771	△137,592	△102,355
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△23,788	176,710	△62,309
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	121,600	178,184	138,813

- (注) 1 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 上記指標は、国際会計基準（以下「IFRS」という。）により作成した要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。
- 3 2021年3月31日を基準日及び2021年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。第196期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、基本的1株当たり四半期（当期）利益及び希薄化後1株当たり四半期（当期）利益を算定しております。
- 4 前第1四半期連結会計期間において行われた企業結合に係る暫定的な会計処理を前第2四半期連結会計期間に確定しているため、前第1四半期連結累計期間の関連する各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。
- 5 当社グループは、2021年8月10日開催の取締役会において、当社の連結子会社であるNippon Paint (Europe) Ltd.（以下「NPE」といいます。）を解散及び清算することを決議し、2021年8月27日に当社が保有するNippon Paint (India) Private Limited（以下「NPI」といいます。）の株式、NPEが保有するNippon Paint Automotive Europe GmbH（以下「NPAE」といいます。）の株式及び当社の連結子会社である日本ペイント・オートモーティブコーティングス株式会社が保有するBerger Nippon Paint Automotive Coatings Private Limited（以下「BNPA」といいます。）の株式をIsaac Newton Corporation（以下「INC」といいます。）に譲渡したため、これらの事業を非継続事業に分類しております。これに伴い、第196期第1四半期連結累計期間及び第196期の売上収益及び税引前四半期利益又は税引前当期利益の金額については、非継続事業を除いた継続事業の金額に組み替えて表示しております。
- 6 第196期にクラウドコンピューティング契約にかかる導入費用の会計方針の変更を行いました。これに伴い、第196期第1四半期連結累計期間の関連する数値の遡及修正を行っております。

## 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(DuluxGroup)

当社グループは、2022年1月20日付で、当社の連結子会社であるDuluxGroup Limited（以下「DuluxGroup」といいます。）が、DGL International (UK) Ltd.を通じて、Cromology Holding SAS（以下「Cromology」といいます。）を子会社化しました。

なお、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 要約四半期連結財務諸表 要約四半期連結財務諸表注記 5. セグメント情報」に記載のとおりであります。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。なお、当社グループは、IFRSに準拠した連結財務諸表を開示しております。

当社グループは、2021年8月10日開催の取締役会においてNPEを解散及び清算することを決議し、2021年8月27日にNPIの株式、NPAEの株式及びBNPAの株式をINCに譲渡したため、要約四半期連結財務諸表の作成上、これらの事業を非継続事業に分類しております。このため、売上収益、営業利益及び税引前四半期利益については、非継続事業を除いた継続事業の金額を記載しております。また、前年同期からの増減率の記載に当たっても、同様に算定しております。詳細につきましては、「第4 経理の状況 1 要約四半期連結財務諸表 要約四半期連結財務諸表注記 11. 非継続事業」に記載のとおりであります。

#### (1) 業績の状況

当社グループの当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、2022年1月20日にクロー징した欧州塗料メーカーCromologyの子会社化や円安の影響に加え、主力事業である中国の汎用塗料が継続的な製品値上げ効果などもあり好調に推移したことで、連結売上収益は2,840億96百万円（前年同期比27.6%増）となりました。連結営業利益は、各地で原材料価格が上昇したことで、243億35百万円（前年同期比1.5%減）となりました。連結税引前四半期利益は249億13百万円（前年同期比3.2%増）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は180億72百万円（前年同期比10.6%増）となりました。

セグメントの状況は次のとおりであります。

なお、「第4 経理の状況 1 要約四半期連結財務諸表 要約四半期連結財務諸表注記 5. セグメント情報」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較においては、前年同期の数値を変更後の区分に組み替えた数値で比較しております。

#### 《日本》

自動車用塗料の売上収益については、半導体供給不足等の影響を受けたことで、自動車生産台数が前年同期を下回り、売上収益は前年同期を下回りました。工業用塗料の売上収益については、新設住宅着工戸数など市況が堅調に推移したものの、新型コロナウイルス感染症の影響が残り、前年同期並みにとどまりました。汎用塗料の売上収益については、新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響を受けたものの、遅延していた塗装工事が進捗するなど、前年同期を上回りました。

これらにより、当セグメントの連結売上収益は417億96百万円（前年同期比1.9%減）となりました。連結営業利益は、原材料価格の上昇などにより、2億89百万円（前年同期比93.2%減）となりました。なお、当第1四半期連結会計期間より、各セグメントの経営成績をより適切に反映するため、従来「調整額」の中で表示してきた上場機能及び純粋持株会社機能に関する事業以外の全ての事業を分社化し、日本セグメントに帰属させる方法にしました。

#### 《Nipsea》

自動車用塗料の売上収益については、中国において、足元は半導体不足等の影響を受けたものの、自動車生産台数が前年同期を上回るなど、前年同期を上回りました。アジアの主力事業である汎用塗料の売上収益については、中国において既存住宅向け内装需要が引き続き堅調に推移したこと、また中国、マレーシア、インドネシア、トルコ等の主要市場において、積極的な製品値上げの結果、前年同期を上回りました。

これらにより、当セグメントの連結売上収益は1,526億28百万円（前年同期比26.3%増）となりました。連結営業利益は、原材料価格の上昇により、178億7百万円（前年同期比8.5%減）となりました。

#### 《DuluxGroup》

2022年1月からのCromologyの損益を当社グループの連結業績に反映しております。汎用塗料の売上収益については、オセアニア及び欧州において、製品値上げが奏功したことから、堅調に推移しました。塗料周辺事業の売上収益については、オセアニアにおいて、消費者向けDIY、プロ向けDIFM（業者による施工が必要な事業）ともに販売が好調だったことに加え、欧州において、ETICS（断熱材）の販売が好調だったことから、堅調に推移しました。

これらにより、当セグメントの連結売上収益は680億27百万円（前年同期比63.8%増）、連結営業利益は64億8百万円（前年同期比11.7%増）となりました。

#### 《米州》

自動車用塗料の売上収益については、中核地域であるアメリカにおいて、半導体供給不足による生産調整の影響を受け、自動車生産台数が前年同期を下回ったものの、円安の影響により、前年同期を上回りました。汎用塗料の売上収益については、底堅い住宅需要や好天が影響し、前年同期を上回りました。

これらにより、当セグメントの連結売上収益は216億44百万円（前年同期比22.2%増）となりました。連結営業利益は、原材料価格の上昇により、8億62百万円（前年同期比6.8%減）となりました。

### (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末と比較して4,006億58百万円増加し、2兆3,557億42百万円となりました。

流動資産につきましては、前連結会計年度末と比較して1,120億4百万円増加しております。主な要因は、営業債権及びその他の債権が増加したことなどによるものです。また、非流動資産につきましては、前連結会計年度末と比較して2,886億54百万円増加しております。主な要因は、Cromologyの買収に伴いのれんが増加したことなどによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して2,885億31百万円増加し、1兆2,749億20百万円となりました。主な要因は、社債及び借入金が増加したことなどによるものです。

資本につきましては、前連結会計年度末と比較して1,121億26百万円増加し、1兆808億21百万円となりました。主な要因は、為替換算調整勘定が増加したことなどによるものです。

以上の結果、親会社所有者帰属持分比率は前連結会計年度末の49.1%から45.5%となりました。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当期は営業活動により56億90百万円の支出、投資活動により1,375億92百万円の支出、財務活動により1,767億10百万円の収入があり、結果として現金及び現金同等物（以下「資金」という）は1,781億84百万円となり、前連結会計年度末と比較して393億70百万円増加しました。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による支出は、56億90百万円（前年同期比11億円増）となりました。主な要因は、継続事業からの税引前四半期利益に減価償却費及び償却費等の非資金支出費用等を加味したキャッシュ・フロー収入（運転資本の増減を除く）が369億16百万円あった一方で、運転資本の増加による資金の減少344億44百万円、法人所得税の支払額が81億63百万円あったことなどによるものです。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による支出は、1,375億92百万円（前年同期比518億21百万円増）となりました。主な要因は、定期預金の減少による10億71百万円の収入、有価証券の減少による136億70百万円の収入があった一方で、有形固定資産の取得による97億75百万円の支出、子会社株式の取得による1,418億88百万円の支出があったことなどによるものです。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による収入は、1,767億10百万円（前年同期は237億88百万円の支出）となりました。主な要因は、借入金の増加による1,948億34百万円の収入、配当金の支払いによる116億88百万円の支出、リース負債の返済による28億49百万円の支出があったことなどによるものです。



(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は62億30百万円であります。

(6) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、Cromologyの子会社化などに伴い、「DuluxGroup」セグメントの従業員数は3,087名増加し、7,014名となりました。

(7) 生産受注及び販売の状況

当第1四半期連結累計期間において、前年同期比で、「DuluxGroup」セグメント及び「米州」セグメントにおける生産及び販売の実績に著しい増加がありました。その内容については、「(1)業績の状況」に記載しております。

### 3 【経営上の重要な契約等】

(金銭消費貸借契約)

当社は、欧州建築用塗料メーカーCromologyの株式の取得に要する買収資金の調達のため、2022年1月19日に金融機関と借入契約（ブリッジローン）を締結しました。

(借り入れの内容)

借入先：	株式会社三井住友銀行、株式会社三菱UFJ銀行
借入金総額：	172,700百万円
借入実行日：	2022年1月19日
支払金利：	基準金利＋スプレッド
借入期間：	1年以内
変動・固定の区分：	変動
担保・保証の有無：	なし

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	5,000,000,000
計	5,000,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2022年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2022年5月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,370,512,215	2,370,512,215	東京証券取引所 市場第一部 (第1四半期 会計期間末現在) プライム市場 (提出日現在)	単元株式数は100株 であります。
計	2,370,512,215	2,370,512,215	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年1月1日～ 2022年3月31日	—	2,370,512	—	671,432	—	670,904

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である2021年12月31日の株主名簿により記載しております。

① 【発行済株式】

2022年3月31日現在

区 分	株式数(株)	議決権の数(個)	内 容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 22,261,000	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 528,100	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,347,566,700	23,475,667	—
単元未満株式	普通株式 156,415	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	2,370,512,215	—	—
総株主の議決権	—	23,475,667	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が5,000株(議決権50個)含まれております。

② 【自己株式等】

2022年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日本ペイント ホールディングス株式会社	大阪市北区大淀北2丁目1 -2	22,261,000	—	22,261,000	0.94
(相互保有株式) 株式会社タイヨーマリビス	東京都中央区日本橋茅場町 3丁目9-10	528,100	—	528,100	0.02
計	—	22,789,100	—	22,789,100	0.96

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」（以下「IAS第34号」という。）に準拠して作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2022年1月1日から2022年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2022年1月1日から2022年3月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日) 修正再表示 (注)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
<b>継続事業</b>			
売上収益	5, 6	222, 678	284, 096
売上原価		△131, 590	△174, 841
売上総利益		91, 088	109, 255
販売費及び一般管理費		△67, 965	△85, 180
その他の収益	8	2, 388	1, 325
その他の費用	9	△810	△1, 065
営業利益		24, 699	24, 335
金融収益		2, 259	2, 124
金融費用		△1, 694	△1, 893
持分法による投資損益		471	348
段階取得による差損		△1, 601	—
税引前四半期利益		24, 134	24, 913
法人所得税		△7, 657	△6, 649
継続事業からの四半期利益		16, 477	18, 264
<b>非継続事業</b>			
非継続事業からの四半期利益 (△損失)	11	△42	—
四半期利益		16, 435	18, 264
<b>四半期利益の帰属</b>			
親会社の所有者		16, 342	18, 072
非支配持分		92	191
四半期利益		16, 435	18, 264
<b>1株当たり四半期利益</b>			
基本的1株当たり四半期利益 (△損失) (円)			
継続事業	12	7.64	7.70
非継続事業	12	△0.01	—
合計		7.62	7.70
希薄化後1株当たり四半期利益 (△損失) (円)			
継続事業	12	7.63	7.70
非継続事業	12	△0.01	—
合計		7.62	7.70

(注) 要約四半期連結財務諸表注記 3. 重要な会計方針 参照

【要約四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日) 修正再表示 (注)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
四半期利益		16,435	18,264
その他の包括利益			
純損益に振り替えられることのない項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 金融資産	13	855	768
確定給付制度の再測定		△44	△55
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対 する持分		1	—
純損益に振り替えられることのない項目合計		811	713
純損益に振り替えられる可能性のある項目			
在外営業活動体の換算差額		62,352	101,070
キャッシュ・フロー・ヘッジ		36	3,242
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対 する持分		219	517
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計		62,608	104,829
その他の包括利益合計		63,420	105,543
四半期包括利益		79,855	123,808
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者		79,420	123,177
非支配持分		435	631
四半期包括利益		79,855	123,808

(注) 要約四半期連結財務諸表注記 3. 重要な会計方針 参照

## (2) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
<b>資産</b>			
流動資産			
現金及び現金同等物		138,813	178,184
棚卸資産		132,798	161,800
営業債権及びその他の債権		266,908	322,257
その他の金融資産	13	39,924	24,613
その他の流動資産		18,430	22,526
小計		596,876	709,382
売却目的で保有する資産		3,860	3,358
流動資産合計		600,736	712,741
非流動資産			
有形固定資産		301,706	346,900
のれん	7	652,692	843,694
その他の無形資産		300,200	344,848
持分法で会計処理されている投資		31,406	32,430
その他の金融資産	13	51,448	54,674
その他の非流動資産		11,873	12,707
繰延税金資産		5,019	7,745
非流動資産合計		1,354,346	1,643,000
資産合計		1,955,083	2,355,742

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
負債及び資本			
負債			
流動負債			
営業債務及びその他の債務		209,686	238,178
社債及び借入金	13	65,115	259,917
その他の金融負債	13	28,701	33,374
未払法人所得税		11,105	12,623
引当金		2,478	5,588
その他の流動負債		55,546	68,213
流動負債合計		372,633	617,896
非流動負債			
社債及び借入金	13	457,919	469,286
その他の金融負債	13	56,288	71,964
退職給付に係る負債		18,570	18,886
引当金		777	1,088
その他の非流動負債		6,157	11,413
繰延税金負債		74,040	84,385
非流動負債合計		613,754	657,023
負債合計		986,388	1,274,920
資本			
資本金	14	671,432	671,432
資本剰余金	7	—	36
自己株式		△6,153	△6,143
利益剰余金		228,009	234,538
その他の資本の構成要素		66,230	171,128
親会社の所有者に帰属する持分合計		959,518	1,070,992
非支配持分		9,176	9,828
資本合計		968,694	1,080,821
負債及び資本合計		1,955,083	2,355,742



## (3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第1四半期連結累計期間（自 2021年1月1日 至 2021年3月31日）

（単位：百万円）

	注記	親会社の所有者に帰属する持分					合計	非支配 持分	資本合計
		資本金	資本 剰余金	自己株式	利益 剰余金	その他の 資本の 構成要素			
2021年1月1日残高		78,862	63,320	△6,268	444,639	△12,156	568,398	131,407	699,805
会計方針の変更による累積的影響額		—	—	—	△760	△42	△803	—	△803
会計方針の変更を反映した当期首残高		78,862	63,320	△6,268	443,878	△12,199	567,594	131,407	699,002
四半期利益		—	—	—	16,342	—	16,342	92	16,435
その他の包括利益		—	—	—	—	63,077	63,077	342	63,420
四半期包括利益		—	—	—	16,342	63,077	79,420	435	79,855
新株の発行	14	592,569	592,569	—	—	—	1,185,139	—	1,185,139
株式発行費用		—	△3,619	—	—	—	△3,619	—	△3,619
自己株式の取得		—	—	△3	—	—	△3	—	△3
自己株式の処分		—	218	50	—	—	269	—	269
配当金	10	—	—	—	△7,380	—	△7,380	△95	△7,476
支配継続子会社に対する持分変動	7	—	△912,321	—	—	△7,033	△919,354	△124,174	△1,043,529
利益剰余金から資本剰余金への振替	7	—	259,832	—	△259,832	—	—	—	—
連結範囲の変動		—	—	—	—	—	—	797	797
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替		—	—	—	573	△573	—	—	—
その他		—	—	—	—	—	—	21	21
所有者との取引額等合計		592,569	△63,320	46	△266,639	△7,606	255,050	△123,451	131,598
2021年3月31日残高		671,432	—	△6,221	193,581	43,271	902,064	8,391	910,455

当第1四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年3月31日）

（単位：百万円）

	親会社の所有者に帰属する持分						非支配 持分	資本合計	
	注記	資本金	資本 剰余金	自己株式	利益 剰余金	その他の 資本の 構成要素			合計
2022年1月1日残高		671,432	—	△6,153	228,009	66,230	959,518	9,176	968,694
四半期利益		—	—	—	18,072	—	18,072	191	18,264
その他の包括利益		—	—	—	—	105,104	105,104	439	105,543
四半期包括利益		—	—	—	18,072	105,104	123,177	631	123,808
新株の発行		—	—	—	—	—	—	—	—
株式発行費用		—	—	—	—	—	—	—	—
自己株式の取得		—	—	△0	—	—	△0	—	△0
自己株式の処分		—	36	10	—	△7	39	—	39
配当金	10	—	—	—	△11,741	—	△11,741	△0	△11,742
支配継続子会社に対する持分 変動		—	—	—	—	—	—	—	—
利益剰余金から資本剰余金へ の振替		—	—	—	—	—	—	—	—
連結範囲の変動		—	—	—	—	—	—	20	20
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替		—	—	—	197	△197	—	—	—
その他		—	—	—	—	—	—	1	1
所有者との取引額等合計		—	36	10	△11,543	△205	△11,702	21	△11,681
2022年3月31日残高		671,432	36	△6,143	234,538	171,128	1,070,992	9,828	1,080,821

## (4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日) 修正再表示(注)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
継続事業からの税引前四半期利益		24,134	24,913
減価償却費及び償却費		8,356	10,198
負ののれん発生益		△1,528	△32
段階取得に係る差損		1,601	—
受取利息及び受取配当金		△765	△487
支払利息		1,523	1,734
持分法による投資損益(△は益)		△471	△348
棚卸資産の増減額(△は増加)		△7,346	△10,557
営業債権及びその他の債権の増減額(△は増加)		△16,023	△22,380
営業債務及びその他の債務の増減額(△は減少)		△8,198	△1,506
その他の流動負債の増減額(△は減少)		△1,239	620
その他		2,554	270
小計		2,597	2,426
利息の受取額		839	804
配当金の受取額		32	1,394
利息の支払額		△1,926	△2,154
法人所得税の支払額		△5,615	△8,163
非継続事業からの営業活動によるキャッシュ・フロー	11	△517	—
営業活動によるキャッシュ・フロー		△4,590	△5,690
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の純増減額(△は増加)		5,758	1,071
有価証券の純増減額(△は増加)		17,406	13,670
有形固定資産の取得による支出		△7,370	△9,775
有形固定資産の売却による収入		169	536
無形資産の取得による支出		△666	△1,210
子会社株式の取得による支出	7	△98,280	△141,888
貸付けによる支出		△3,004	△1,956
貸付金の回収による収入		169	1,324
その他		93	633
非継続事業からの投資活動によるキャッシュ・フロー	11	△47	—
投資活動によるキャッシュ・フロー		△85,771	△137,592
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額(△は減少)		2,607	173,836
長期借入れによる収入		693	30,000
長期借入金の返済による支出		△928	△9,001
リース負債の返済による支出		△2,200	△2,849
株式の発行による支出		△5,214	—
配当金の支払額	10	△7,334	△11,688
非支配持分への配当金の支払額		△1,325	—
新規連結子会社の旧株主に対する配当金の支払額		△10,011	—
子会社株式の追加取得に係る前払金の支払額		—	△3,350
その他		△31	△237
非継続事業からの財務活動によるキャッシュ・フロー	11	△42	—
財務活動によるキャッシュ・フロー		△23,788	176,710
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響		3,616	5,944
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		△110,534	39,370
現金及び現金同等物の期首残高		232,134	138,813
現金及び現金同等物の四半期末残高		121,600	178,184

(注) 要約四半期連結財務諸表注記 3. 重要な会計方針 参照

## 【要約四半期連結財務諸表注記】

### 1. 報告企業

日本ペイントホールディングス株式会社（以下、「当社」という。）は日本に所在する企業であり、東京証券取引所に株式を上場しております。登記上の本社の住所は、大阪府大阪市北区大淀北2丁目1番2号です。

当第1四半期連結会計期間（2022年1月1日から2022年3月31日まで）及び当第1四半期連結累計期間（2022年1月1日から2022年3月31日まで）の要約四半期連結財務諸表は、当社及び連結子会社（以下、「当社グループ」という。）、並びに当社グループの関連会社に対する持分により構成されております。また、当社の親会社は、Nipsea International Limited、Nipsea Holdings International Limited、Wuthelam Holdings Limited、Rainbow Light Limited及びEpimetheus Limited（最終親会社）であります。

当社グループは、塗料・コーティング事業として自動車用、汎用、工業用、ファインケミカル及びその他塗料の製造・販売を、塗料周辺事業として接着剤等の塗料関連製品の製造・販売を主な事業としております。

### 2. 作成の基礎

#### (1) IFRSに準拠している旨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同93条の規定により、IAS第34号に準拠して作成しております。

要約四半期連結財務諸表は、連結会計年度の連結財務諸表で要求されるすべての情報が含まれていないため、前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものです。

#### (2) 測定の基礎

要約四半期連結財務諸表は、公正価値で測定する金融商品等を除き、取得原価を基礎として作成しております。

#### (3) 機能通貨及び表示通貨

要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円（百万円単位、単位未満切捨て）で表示しております。

#### (4) 要約四半期連結財務諸表の承認

要約四半期連結財務諸表は、2022年5月13日に当社取締役 代表執行役共同社長 若月 雄一郎によって承認されております。

#### (5) 表示方法の変更

非継続事業に分類した事業に係る損益は、要約四半期連結損益計算書において継続事業からの四半期利益の後に法人所得税控除後の金額で区分表示しております。非継続事業に分類した事業に関して、前第1四半期連結累計期間の要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書並びに関連する要約四半期連結財務諸表注記を一部組み替えて表示しております。

### 3. 重要な会計方針

当社グループが本要約四半期連結財務諸表において適用する会計方針は、以下を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同様です。

(クラウドコンピューティング契約にかかる導入費用)

2021年4月にIFRS解釈指針委員会(IFRIC)より、「クラウドコンピューティング契約にかかる導入費用(IAS第38号に関連)」のアジェンダ決定が公表されました。当アジェンダ決定により、クラウドコンピューティング契約において、顧客がクラウドサービスを受けるために導入費用を支払った場合の会計処理が明確化されました。

当社グループの一部では、クラウドコンピューティング契約において、クラウドサービスを受けられるようにするための設定作業や顧客の仕様に合わせるためのカスタマイズ作業のための費用を資産計上しておりましたが、2021年4月に公表されたIFRS解釈指針委員会のアジェンダ決定に至る議論を踏まえて、クラウドサービスを受けられるようにするための設定作業や顧客の仕様に合わせるためのカスタマイズ作業のサービスを受領したときにそのコストを費用として認識する方法に前連結会計年度末より変更しました。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前第1四半期連結累計期間については遡及適用後の要約四半期連結財務諸表となっております。

この結果、遡及適用を行う前と比べて、前第1四半期連結累計期間の要約四半期連結損益計算書は、販売費及び一般管理費が205百万円増加し、営業利益、税引前四半期利益、継続事業からの四半期利益及び四半期利益がそれぞれ205百万円減少しております。前第1四半期連結累計期間の要約四半期キャッシュ・フロー計算書は、継続事業からの税引前四半期利益が205百万円減少しております。

前第1四半期連結累計期間の継続事業の基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益並びに継続事業と非継続事業の合計の基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益は、それぞれ0.10円減少しております。

### 4. 重要な会計上の見積り、判断及び仮定

当社グループは、要約四半期連結財務諸表の作成において、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、会計上の見積り及び仮定を設定しております。実際の業績は、これらの見積りとは異なる場合があります。

見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直しております。会計上の見積りの変更による影響は、見積りを変更した会計期間及び将来の会計期間において認識しております。

本要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び判断は、原則として前連結会計年度に係る連結財務諸表と同様です。

なお、重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断については、現時点で入手し得る最新の情報に基づいて行っておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響が地域や業種により異なり、グローバルでの最終需要や市況を合理的に見積もることは困難な状況です。しかしながら、地域ごとに一律ではないものの徐々に経済活動が再開されるのに伴い、全体として市場は緩やかに回復に向かうと仮定しております。この結果、当社グループの中長期的な業績見通しに重要な影響を及ぼさず、本要約四半期連結財務諸表における会計上の見積りにも影響を及ぼさないと判断しております。

## 5. セグメント情報

### (1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高経営意思決定機関である取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。当社グループは、塗料・コーティング事業として自動車用、汎用、工業用、ファインケミカル及びその他塗料の製造・販売を、塗料周辺事業として接着剤等の塗料関連製品の製造・販売を主な事業としており、日本においては独立した法人及びその法人が統括する法人が、海外においてはアジア、オセアニア、その他の各地域をNipseaやDuluxGroupなどを中心に独立した現地法人が、また、米州においては独立した現地法人がそれぞれ担当しております。各法人はそれぞれ独立した経営単位であり、取り扱う製品について各経営管理単位又は各地域の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは製造・販売体制を基礎とした経営管理単位又は地域別のセグメントから構成されており、「日本」、「Nipsea」、「DuluxGroup」及び「米州」の4つを報告セグメントとしております。なお、「日本」には船舶用塗料の海外事業が含まれております。

当社グループは、2021年8月10日開催の取締役会においてNPEを解散及び清算することを決議し、2021年8月27日にNPIの株式、NPAEの株式及びBNPAの株式をINCに譲渡したため、これらの事業を非継続事業に分類し、セグメント情報から控除しております。これに伴い、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、非継続事業を除いた継続事業のみの金額に組み替えて表示しております。

### (2) 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、従来、地域別の製造・販売体制を基礎とした「日本」、「アジア」、「オセアニア」及び「米州」の4つを報告セグメントとしておりましたが、報告セグメントの構成を製造・販売体制を基礎とした経営管理単位又は地域別にすることが、現状の組織体制をより適切に反映すると判断しました。

これにより、当第1四半期連結会計期間より、製造・販売体制を基礎とした経営管理単位又は地域別のセグメントである「日本」、「Nipsea」、「DuluxGroup」及び「米州」の4つの報告セグメントに変更しております。なお、「日本」には船舶用塗料の海外事業が含まれております。また、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分により作成したものを記載しております。

## (3) 報告セグメントごとの実績

前第1四半期連結累計期間（自 2021年1月1日 至 2021年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)	要約四半期 連結財務 諸表計上額
	日本	Nipsea	DuluxGroup	米州	計		
売上収益							
外部顧客への売上収益	42,625	120,821	41,518	17,712	222,678	—	222,678
セグメント間売上収益	3,855	882	109	11	4,859	△4,859	—
合 計	46,481	121,704	41,628	17,723	227,537	△4,859	222,678
セグメント利益	4,252	19,466	5,736	925	30,380	△5,680	24,699
金融収益							2,259
金融費用							△1,694
持分法による投資損益							471
段階取得による差損							△1,601
税引前四半期利益							24,134

(注) セグメント利益の調整額△5,680百万円には、各セグメントに帰属しない本部費用△7,278百万円、セグメント間取引消去1,597百万円が含まれております。

当第1四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)	要約四半期 連結財務 諸表計上額
	日本	Nipsea	DuluxGroup	米州	計		
売上収益							
外部顧客への売上収益	41,796	152,628	68,027	21,644	284,096	—	284,096
セグメント間売上収益	4,126	980	129	21	5,257	△5,257	—
合 計	45,923	153,609	68,156	21,665	289,354	△5,257	284,096
セグメント利益	289	17,807	6,408	862	25,368	△1,033	24,335
金融収益							2,124
金融費用							△1,893
持分法による投資損益							348
段階取得による差損							—
税引前四半期利益							24,913

(注) セグメント利益の調整額△1,033百万円には、各セグメントに帰属しない本部費用△933百万円、セグメント間取引消去△100百万円が含まれております。

## 6. 売上収益

当社グループは、2021年8月10日開催の取締役会においてNPEを解散及び清算することを決議し、2021年8月27日にNPIの株式、NPAEの株式及びBNPAの株式をINCに譲渡したため、これらの事業を非継続事業に分類しております。これに伴い、前第1四半期連結累計期間の売上収益については、非継続事業を除いた継続事業のみの金額に組み替えて表示しております。

また、当社グループでは、顧客との契約から生じる収益について、事業別に分解しております。事業別の収益と報告セグメントとの関連は、以下のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間（自 2021年1月1日 至 2021年3月31日）

（単位：百万円）

	日本	Nipsea	DuluxGroup	米州	合計
塗料・コーティング事業					
自動車用塗料	10,203	18,631	—	6,169	35,003
汎用塗料	9,936	85,461	21,538	11,228	128,165
工業用塗料	9,026	8,897	1,553	—	19,476
ファインケミカル	2,250	1,592	—	314	4,156
その他塗料	11,209	2,612	—	—	13,822
	42,625	117,194	23,092	17,712	200,624
塗料周辺事業	—	3,627	18,426	—	22,053
合 計	42,625	120,821	41,518	17,712	222,678

当第1四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年3月31日）

（単位：百万円）

	日本	Nipsea	DuluxGroup	米州	合計
塗料・コーティング事業					
自動車用塗料	8,651	21,151	—	6,970	36,774
汎用塗料	10,413	111,261	44,285	14,306	180,266
工業用塗料	9,087	9,286	1,913	—	20,287
ファインケミカル	1,951	2,082	—	366	4,400
その他塗料	11,692	2,886	—	—	14,578
	41,796	146,667	46,199	21,644	256,307
塗料周辺事業	—	5,960	21,828	—	27,788
合 計	41,796	152,628	68,027	21,644	284,096



## 7. 企業結合及び非支配持分の取得

前第1四半期連結累計期間（自 2021年1月1日 至 2021年3月31日）

（アジア合弁事業100%化並びにインドネシア事業の買収）

企業結合等の主な理由

塗料は一般住宅や商業施設用の建物、自動車・列車などの輸送機器、橋や道路などのインフラに幅広く使われており、人口増加や都市化に比例してその需要は増加しております。したがって、今後もアジア地域は人口増加や経済成長に伴い確実な塗料需要の増大が見込める市場であり、当社の持続的な成長にとって、市場規模及び成長率の観点から重要性が一層高まっているため、Wuthelamグループ（Wuthelam Holdings Limited（以下「Wuthelam社」といいます。）及びその代表者であるゴー・ハップジン氏（以下、Wuthelam社及びゴー・ハップジン氏を併せて「Wuthelam社ら」と総称し、Wuthelam社ら、Wuthelam社の子会社及びWuthelam社らを実質的に支配する者を併せて「Wuthelamグループ」と総称します。）との合弁事業（以下、「本件対象合弁事業」といい、インドネシア事業と併せて「本件対象事業」といいます。）の持分の概ね100%を取得しました。加えて、高成長を果たしているインドネシア市場にあって、特に、人口増加や一人当たりGDP成長に比例して成長する建築用塗料領域において、成長余地が大きく高いシェアを誇るインドネシア事業を取り込むことにより、圧倒的No.1の「アジア×建築用」事業モデルを確立します。また、併せて、Wuthelamグループに属するNipsea International Limited及びFraser (HK) Limitedを割当先とした第三者割当による当社の新株式の発行により、資本を増強し財務基盤を強化することで株主価値の最大化に資するM&Aを更に積極化することが可能となり、当社の今後の成長を大きく加速させるものと考えております。

本件対象事業取得により、本件対象合弁事業の利益のうち、これまでWuthelamグループに帰属していた非支配持分、及び、インドネシア事業等の本件対象事業取得により新たに当社の連結範囲に加わる事業の利益も取り込まれ、当社の基本的1株当たり当期利益（EPS）は向上することが見込まれるとともに、利益の社外流出を抑えることで資源配分の全体最適が可能になります。さらに、工業用塗料事業において地域軸から事業軸に切り替え、グローバルで一体化して推し進める体制を構築することで迅速な意思決定及び執行が可能となり、事業収益の拡大が期待できます。したがって、本件対象事業取得は当社の株主価値の最大化に資すると考えております。

当取引には、以下の企業結合及び非支配持分の取得が含まれます。

### (1) 企業結合

#### ① 企業結合の概要

##### (a) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：Neave Limited及びその子会社であるPT Nipsea Paint and Chemicals（インドネシア事業）

事業の内容：塗料等の製造販売

##### (b) 取得日

2021年1月25日

##### (c) 取得した議決権付資本持分の割合

100%

##### (d) 被取得企業の支配を獲得した方法

株式の取得

#### ② 企業結合日における取得資産及び引受負債の公正価値

	(単位：百万円)
	公正価値
現金及び現金同等物	1,062
有形固定資産	18,079
無形資産	48,010
その他の資産	15,444
引受負債の公正価値	△18,055
取得資産及び引受負債の公正価値（純額）	64,542

営業債権及びその他の債権

	(単位：百万円)	
	契約上の債権金額	公正価値
営業債権	7,249	6,980
未収入金	97	93
計	7,346	7,074
回収が見込まれない契約上のキャッシュ・フローの 最善の見積り	△272	-
差引合計	7,074	7,074

(注) 1 取得対価は、支配獲得日における公正価値を基礎として、資産及び負債に配分しております。前第2四半期連結会計期間において、取得対価の配分が完了しました。当初の暫定的な金額からの修正は、次のとおりであります。暫定的な会計処理の確定に伴い、前第1四半期連結累計期間の要約四半期連結財務諸表を遡及修正しております。

有形固定資産	11,277	百万円増加
無形資産(注) 2	47,985	百万円増加
その他の資産	1,329	百万円増加
引受負債の公正価値	12,118	百万円増加
非支配株主持分のれん	48	百万円増加
のれん	48,424	百万円減少

2 無形資産は商標権43,570百万円と顧客関連資産4,415百万円であり、取得対価の配分に際し、商標権はロイヤルティ免除法、顧客関連資産は超過収益法を用いて公正価値を測定しております。

③ 移転対価及びのれん

	(単位：百万円)		
	金額		
移転対価	(現金)	A	100,000
	(譲渡代金支払請求権) (注) 1	B	135,490
取得資産及び引受負債の公正価値(純額)		C	64,542
非支配持分(注) 2		D	64
のれん(注) 3		A+B-(C-D)	171,012

(注) 1 本件株式の譲渡代金支払請求権を出資の目的とする現物出資を受け、第三者割当新株発行を行っております。

2 非支配持分は、被取得企業の識別可能な純資産の公正価値に対する非支配株主持分の持分割合で測定しております。

3 のれんは、主に将来の超過収益力及び既存事業とのシナジー効果を反映したものであります。なお、当該のれんについて税務上、損金算入を見込んでいる金額はありません。

④ 取得関連費用

表示科目：販売費及び一般管理費  
金額：385百万円

⑤ 要約四半期連結損益計算書に与える影響

要約四半期連結損益計算書で認識されている取得日以降の被取得企業の業績

	(単位：百万円)
	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)
売上収益	9,910
四半期利益	1,835

⑥ 企業結合によるキャッシュ・フローへの影響

	(単位：百万円)
	金額
取得対価の支払	100,000
現金及び現金同等物	△1,062
子会社株式の取得による支出	98,937

(2) 非支配持分の取得

前第1四半期連結会計期間において、当社は、アジア一体化による成長基盤の構築のため、下記株式を追加取得しました。

この結果、非支配持分が124,174百万円、資本剰余金が912,321百万円、その他の資本の構成要素が7,033百万円減少しております。これにより、資本剰余金が負の値となったため、利益剰余金から資本剰余金に259,832百万円振り替え、資本剰余金をゼロとしております。

名称	議決権比率（うち間接所有）		
	取得前	追加取得	取得後
Nippon Paint (China) Company Limited (注)	51%	49%	100%
	(-%)	(49%)	(49%)
Guangzhou Nippon Paint Co., Ltd. (注)	51%	49%	100%
	(-%)	(49%)	(49%)
Nippon Paint (Chengdu) Co., Ltd. (注)	51%	49%	100%
	(-%)	(49%)	(49%)
Nippon Paint (H.K.) Company Limited (注)	51%	49%	100%
	(-%)	(49%)	(49%)
日本ペイントマリン株式会社 (注)	60%	40%	100%
	(-%)	(40%)	(40%)
日本ペイントマテリアルズ株式会社 (注)	60%	40%	100%
	(-%)	(40%)	(40%)
Nippon Paint Coatings (Taiwan) Co., Ltd.	51%	49%	100%
	(-%)	(-%)	(-%)
Nipsea Chemical Co., Ltd.	51%	49%	100%
	(-%)	(-%)	(-%)
Nippon Paint (Malaysia) Sdn. Bhd.	51%	49%	100%
	(-%)	(-%)	(-%)
Paint Marketing Co. (M) Sdn. Bhd.	51%	49%	100%
	(-%)	(-%)	(-%)
Nippon Paint (Singapore) Company Private Limited	51%	49%	100%
	(-%)	(-%)	(-%)
Nipsea Technologies Pte. Ltd.	51%	49%	100%
	(-%)	(-%)	(-%)
Nippon Paint (Thailand) Company Limited	51%	48.9%	99.9%
	(-%)	(-%)	(-%)

(注) Nippon Paint Holdings SG Pte. Ltd. を通じて間接所有しております。

当第1四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年3月31日）

（Cromology Holding SASの株式取得）

企業結合の主な理由

欧州市場は、中国に次ぐ世界第2位の塗料市場（※）であり、今後も安定的な成長が見込まれております。Cromologyは、欧州で第4位の建築用塗料メーカーであり、建築用塗料市場におけるマーケットリーダーとして、フランス、イタリア、スペイン及びポルトガルで上位3社に位置するなど高いシェアを有し、欧州で幅広く事業展開しております。

日本ペイントグループ傘下において、当社グループの投資能力、ブランド管理、マーケティング及びイノベーション創出力と、Cromologyのローカル市場で高い認知度を誇るブランド及び強力な小売店との関係性を統合することで、フランス、スペイン、イタリア、ポルトガル、更には東欧諸国の一部を含む欧州主要都市への市場拡大が可能になる見込みです。またCromologyは、当社グループにとって欧州市場で汎用塗料事業への地盤構築の足掛かりとして、適切な事業規模、販売規模及び製造能力を有しており、本買収により、当社グループは新たな企業買収を行うための基盤を得ることができます。加えて、Cromologyは、フランス、ポルトガル及びスイスで直営店を運営しており、DuluxGroupの大規模・中規模のホームセンター等をはじめとするDIY顧客向けの販売チャネルを通じた販売力の活用が可能です。本買収により、木工用塗料、高意匠塗料及びSAF（密封剤、接着剤、充填剤）など、DuluxGroupのポートフォリオに新たなブランドを立ち上げるための強力なプラットフォームが獲得できます。

※ 出典：ACA（American Coatings Association）発表のGlobal Market Analysis for the Paint & Coatings Industry（2019-2024）（塗料・コーティングス産業のグローバル市場分析（2019-2024年））より <https://paint.org/market>

## (1) 企業結合

### ① 企業結合の概要

#### (a) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：Cromology Holding SAS

事業の内容：塗料及び塗料周辺製品の製造・販売

#### (b) 取得日

2022年1月20日

#### (c) 取得した議決権付資本持分の割合

99.8%

#### (d) 被取得企業の支配を獲得した方法

株式の取得

### ② 企業結合日における取得資産及び引受負債の公正価値

	(単位：百万円)
	公正価値
現金及び現金同等物	9,530
有形固定資産	21,821
無形資産	22,146
その他の資産	30,424
引受負債の公正価値	△64,326
取得資産及び引受負債の公正価値（純額）	19,596

営業債権及びその他の債権

	(単位：百万円)	
	契約上の債権金額	公正価値
営業債権	8,454	7,967
未収入金	5,313	5,007
計	13,767	12,975
回収が見込まれない契約上のキャッシュ・フローの 最善の見積り	△791	—
差引合計	12,975	12,975

(注) 取得資産及び引受負債の額については、当第1四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、現時点で入手可能な情報に基づいて暫定的に算定しております。取引日に存在していた事実及び状況について取得日から1年以内に新たな情報が生じ、上記の金額に修正又は追加がある場合には、取得時の会計処理を修正することとなります。

③ 移転対価及びのれん

			(単位：百万円)
			金額
移転対価	(現金等)	A	153,768
取得資産及び引受負債の公正価値(純額)		B	19,596
のれん(注)		A-B	134,172

(注) のれんは、主に将来の超過収益力及び既存事業とのシナジー効果を反映したものであります。  
なお、当該のれんについて税務上、損金算入を見込んでいる金額はありません。

④ 取得関連費用

表示科目：販売費及び一般管理費  
金額：1,083百万円

⑤ 要約四半期連結損益計算書に与える影響

要約四半期連結損益計算書で認識されている取得日以降の被取得企業の業績

	(単位：百万円)
	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
売上収益	22,648
四半期利益	757

⑥ 企業結合によるキャッシュ・フローへの影響

	(単位：百万円)
	金額
取得対価の支払	150,600
現金及び現金同等物	△9,530
子会社株式の取得による支出	141,070

## 8. その他の収益

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
負ののれん発生益	1,528	32
受入マネジメントフィー	33	85
補助金収入(注)	279	440
その他	546	766
合 計	2,388	1,325

(注) 補助金収入は、主に中国子会社における、政府からの補助金等であります。

## 9. その他の費用

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
固定資産除売却損	259	458
その他	551	606
合 計	810	1,065

## 10. 配当金

前第1四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年3月26日 定時株主総会	普通株式	7,380	23.00	2020年12月31日	2021年3月29日

当第1四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年3月29日 定時株主総会	普通株式	11,741	5.00	2021年12月31日	2022年3月30日

(注) 2021年3月31日を基準日及び2021年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。基準日を2020年12月31日とする1株当たり配当額は株式分割前の金額を記載しております。

## 11. 非継続事業

当社グループは、2021年8月10日開催の取締役会においてNPEを解散及び清算することを決議し、2021年8月27日にNPIの株式、NPAEの株式及びBNPAの株式をINCに譲渡しました。そのため、前第1四半期連結累計期間におけるこれらの事業に関連する損益及びキャッシュ・フローを、非継続事業として区分表示しております。

### (1) 非継続事業の業績

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
非継続事業の損益		
収益	8,859	-
費用	△8,857	-
非継続事業からの税引前四半期利益 (△損失)	2	-
法人所得税	△44	-
非継続事業からの四半期利益 (△損失)	△42	-

### (2) 非継続事業からのキャッシュ・フロー

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
非継続事業からのキャッシュ・フロー		
営業活動によるキャッシュ・フロー	△517	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△47	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△42	-
合          計	△607	-

## 12. 1株当たり四半期利益

基本的1株当たり四半期利益（△損失）及び希薄化後1株当たり四半期利益（△損失）の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
親会社の所有者に帰属する継続事業からの 四半期利益(百万円)	16,368	18,072
親会社の所有者に帰属する非継続事業からの 四半期利益(△損失)(百万円)	△25	—
親会社の所有者に帰属する四半期利益(百万円)	16,342	18,072
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に用いら れた継続事業からの四半期利益調整額(百万円)	—	—
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に用いら れた非継続事業からの四半期利益調整額(百万円)	—	—
希薄化後四半期利益(百万円)	16,342	18,072
発行済普通株式の加重平均株式数(千株)	2,143,589	2,348,246
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に用いら れた普通株式増加数(千株)	660	222
ストック・オプションによる増加(千株)	254	222
譲渡制限付株式報酬制度による増加(千株)	405	—
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に用いら れた普通株式の加重平均株式数(千株)	2,144,250	2,348,469
基本的1株当たり四半期利益(△損失)(注)		
継続事業(円)	7.64	7.70
非継続事業(円)	△0.01	—
合計(円)	7.62	7.70
希薄化後1株当たり四半期利益(△損失)(注)		
継続事業(円)	7.63	7.70
非継続事業(円)	△0.01	—
合計(円)	7.62	7.70

(注) 当社は、2021年3月31日を基準日及び2021年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、基本的1株当たり四半期利益（△損失）及び希薄化後1株当たり四半期利益（△損失）を算定しております。



### 13. 金融商品

当社グループは、公正価値測定において入手可能な限り市場の観察可能なデータを用いております。

公正価値測定はインプットのレベル区分に基づき以下のいずれかに分類されます。

レベル1：活発な市場における無調整の同一資産・負債の市場価格のインプット

レベル2：レベル1で使用された市場価格以外の、直接又は間接的に観察可能な価格で構成されたインプット

レベル3：観察可能な市場データに基づかないインプット

公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替は、振替を生じさせた事象又は状況の変化の日に認識しております。

なお、一部のデリバティブについては、公正価値ヘッジを適用しております。

#### (1) 金融商品の公正価値

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)		当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
純損益を通じて 公正価値で測定する金融資産				
短期投資	18,243	18,243	5,694	5,694
株式	0	0	0	0
デリバティブ資産	3,912	3,912	2,919	2,919
債券	913	913	528	528
その他の金融資産	902	902	1,253	1,253
その他の包括利益を通じて 公正価値で測定する金融資産				
株式	43,649	43,649	46,176	46,176
その他の金融資産	10,532	10,532	7,880	7,880
償却原価で測定する金融負債				
社債及び借入金	523,034	522,951	729,203	725,993
純損益を通じて 公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ負債	3,444	3,444	242	242
その他				
非支配株主に係る売建プット・ オプション負債	7,697	7,697	8,129	8,129

上記には、帳簿価額が公正価値の合理的な近似値となっている以下の金融商品（いずれも償却原価で測定する金融資産又は金融負債）は含めておりません。

現金及び現金同等物、営業債権及びその他の債権、定期預金、貸付金、その他の金融資産（その他）、営業債務及びその他の債務、預り金及び長期預り金並びに、その他の金融負債（その他）のうち償却原価で測定する金融負債

金融商品の公正価値の見積方法は次のとおりであります。

① 社債及び借入金

社債及び長期借入金の公正価値は、残存期間における元利金の合計額を、新規に同様の借入等を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2に分類しております。

② デリバティブ資産及びデリバティブ負債

デリバティブ資産及びデリバティブ負債は、それぞれその他の金融資産及びその他の金融負債に含まれ、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産及び金融負債のレベル2に分類しております。これらは為替予約、金利通貨スワップ等であり、為替予約については先物為替相場に基づき、金利通貨スワップ等については取引先金融機関から提示された価額等に基づき算定しております。

③ 株式

株式は、その他の金融資産に含まれ、主に、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産に分類しております。株式については、レベル1に区分されているものは活発な市場で取引されている上場株式であり、取引所の市場価格によって評価しております。非上場株式については主に類似企業比較法、又は、純資産価値に基づく評価技法により公正価値を算定し、レベル3に分類しております。

④ 債券

国債等の債券は償却原価にて測定されるものを除き、市場価格によって算定しております。

⑤ 短期投資

短期投資はその他の金融資産に含まれ、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産に分類しております。短期投資は、安全性及び流動性の高い金融商品で余剰資金により運用しております。公正価値については、主に割引キャッシュ・フローに基づく評価技法により公正価値を算定し、レベル2に分類しております。

短期投資の測定に関するインプットは、取引先金融機関が価格を算出するために基礎としたパラメーター、為替レート及び金利等の情報であり、その変動により短期投資の公正価値は増加又は減少します。

⑥ その他の金融資産（その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産）

その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産におけるその他の金融資産は、主に受取手形であり、将来キャッシュ・フローを割り引く方法により公正価値を算定し、主にレベル2に分類しております。

⑦ 非支配株主に係る売建プット・オプション負債

非支配株主に係る売建プット・オプション負債の公正価値は、将来キャッシュ・フローを割り引く方法に基づいて算定しております。

## (2) 公正価値測定のレベル

## ① 経常的に公正価値で測定される金融資産及び金融負債について公正価値ヒエラルキーのレベル別内訳

当社グループは、各期末日までに区分を再評価することにより、公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替が生じていないかを判断しております。なお、前連結会計年度及び当第1四半期連結累計期間においてレベル1及びレベル2の間で振替が行われた金融資産及び金融負債はありません。

前連結会計年度（2021年12月31日）

（単位：百万円）

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
<b>金融資産</b>				
純損益を通じて 公正価値で測定する金融資産				
短期投資	—	18,243	—	18,243
株式	0	—	—	0
デリバティブ資産	—	3,912	—	3,912
債券	913	—	—	913
その他の金融資産	—	—	902	902
小計	913	22,156	902	23,972
その他の包括利益を通じて 公正価値で測定する金融資産				
株式	38,377	10	5,260	43,649
その他の金融資産	—	10,522	10	10,532
小計	38,377	10,533	5,270	54,182
資産合計	39,291	32,690	6,173	78,154
<b>金融負債</b>				
純損益を通じて 公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ負債	—	3,444	—	3,444
小計	—	3,444	—	3,444
その他				
非支配株主に係る売建プット・ オプション負債	—	—	7,697	7,697
小計	—	—	7,697	7,697
負債合計	—	3,444	7,697	11,142

当第1四半期連結会計期間（2022年3月31日）

（単位：百万円）

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
<b>金融資産</b>				
純損益を通じて 公正価値で測定する金融資産				
短期投資	—	5,694	—	5,694
株式	0	—	—	0
デリバティブ資産	—	2,919	—	2,919
債券	528	—	—	528
その他の金融資産	—	—	1,253	1,253
小計	528	8,614	1,253	10,396
その他の包括利益を通じて 公正価値で測定する金融資産				
株式	40,027	10	6,138	46,176
その他の金融資産	—	7,870	10	7,880
小計	40,027	7,881	6,149	54,057
資産合計	40,555	16,495	7,402	64,454
<b>金融負債</b>				
純損益を通じて 公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ負債	—	242	—	242
小計	—	242	—	242
<b>その他</b>				
非支配株主に係る売建プット・ オプション負債	—	—	8,129	8,129
小計	—	—	8,129	8,129
負債合計	—	242	8,129	8,372

② レベル2に分類されている金融商品

レベル2に分類されている金融商品は、主に短期投資、デリバティブ資産及びデリバティブ負債であります。公正価値は、金利及び取引先金融機関から提示された価格等の観察可能なインプットに基づき算定しております。

③ レベル3に分類されている金融商品

レベル3に分類されている金融商品は、主に非上場株式により構成されており、主に類似企業比較法、又は、純資産価値に基づく評価技法により公正価値を算定しております。

非上場株式の公正価値は、当社及びグループ会社の担当部門がグループ会計方針等に従って測定し、公正価値の変動の根拠と併せて上位者に報告がなされております。

レベル3に分類された金融商品について、観察可能でないインプットを合理的に考え得る代替的な仮定に変更した場合の重要な公正価値の変動は見込まれておりません。

レベル3に分類されている金融商品の公正価値の変動

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
期首残高	5,041	6,173
利得及び損失		
その他の包括利益(注)	△540	38
購入、発行、売却、決済		
購入	—	278
売却・償還	△119	—
持分法で会計処理されている投資への振替	△14	—
為替換算差額	277	387
企業結合による取得	3,569	524
期末残高	8,212	7,402

(注) 1 包括利益計算書の「その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産」に含まれております。

2 当連結会計年度期首及び第1四半期連結累計期間末におけるレベル3に分類される売建プット・オプション負債残高はそれぞれ、7,697百万円、8,129百万円であり、当第1四半期連結累計期間における変動は、為替の変動によるものであります。

#### 14. 資本金

##### 授権株式及び発行済株式の株数

	授権株式数(千株)	発行済株式数(千株)
2021年1月1日	1,000,000	325,402
増加	4,000,000	2,045,109
内訳		
第三者割当による新株式の発行	—	148,700
株式分割	4,000,000	1,896,409
減少	—	—
2021年12月31日	5,000,000	2,370,512
増加	—	—
減少	—	—
2022年3月31日	5,000,000	2,370,512

(注) 1 当社の発行する株式は、すべて権利内容に何ら限定のない無額面普通株式であります。

- 2 2021年1月25日に、当社とWuthelamグループとで運営するアジア地域の合弁会社の持分追加取得、Wuthelamグループが持分の99.9%を保有し運営するインドネシア事業の持分取得（子会社化）、第三者割当による新株式の発行の払込及び親会社の異動が完了しました。

本件対象事業取得に際して支払う対価の総額1,285,139百万円のうち、インドネシア事業の取得対価の一部である100,000百万円については現金で支払いました。残りの1,185,139百万円については、Wuthelamグループに属するNipsea International Limited 及びFraser (HK) Limitedから譲渡代金支払請求権を出資の目的とする現物出資を受けることにより、第三者割当による新株式の発行を行い、2021年1月25日に払込みの手続が完了しました。

これにより、発行済株式総数は148,700千株増加し、474,102千株となりました。

- 3 2021年2月10日開催の取締役会決議に基づき、2021年4月1日付で株式分割に伴う定款変更を行い、発行可能株式総数は4,000,000千株増加し、5,000,000千株となっております。また、同決議により、2021年3月31日を基準日及び2021年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。これにより、発行済株式数は1,896,409千株増加し、2,370,512千株となりました。

## 15. 関連当事者との取引

報告期間中に行われた、関連当事者との取引は以下のとおりであります。関連当事者は、当社及びその連結子会社との間で、関連会社としての関係を持つ事業として識別されております。

### (1) 関連当事者との取引高

(単位：百万円)

種類	名称	取引の内容	取引金額	
			前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
	Nipsea International Limited	支払配当	2,918	6,465
		第三者割当新株発行	1,049,649	—
	Fraser (HK) Limited	支払配当	—	425
		第三者割当新株発行	135,490	—
	Wuthelam Holdings Limited、 Nipsea Holdings International Limited、 Hua Joo Seng Enterprise Sdn. Bhd.、 Wuthelam Holdings Pte. Ltd.	子会社株式の譲受	1,049,649	—
	TSI Group Management Limited	子会社株式の譲受	235,490	—
	Berger Nippon Paint Automotive Coatings Private Limited	製品等の販売	—	126
		ロイヤリティー等 受取	—	3
		経費立替	—	9
役員及びその 近親者が議決権 の過半数を所有 している会社	Nippon Paint (India) Private Limited	原材料等の販売	—	89
		ロイヤリティー等 受取	—	5
		製品補償受入	—	0
		製品等の購入	—	25
		経営指導料の受取	—	59
	Nippon Paint Automotive Europe GmbH	原材料等の販売	—	29
		経営指導料の受取	—	19
		経営指導料の支払	—	3
	Nippon Paint Automotive (France) SAS	原材料等の販売	—	0
		ロイヤリティー等 受取	—	1
	Nippon Paint Automotive Coatings (Czech) Co., Ltd.	通関手数料の 立替受取	—	0
		製品等の購入	—	135
	Nippon Paint Automotive (UK) Ltd.	原材料等の販売	—	513
		ロイヤリティー等 受取	—	149

(注) 1 取引条件及び取引条件の決定方針等

取引金額の決定については、第三者との取引を勘案し、決定しております。

2 Nipsea International Limited、Nipsea Holdings International Limited 及びWuthelam Holdings Limited は、2021年1月25日に当社の親会社となりました。

- 3 当社は、2021年1月25日にHua Joo Seng Enterprise Sdn. Bhd. 及びWuthelam Holdings Pte. Ltd. と同一の親会社をもつ会社となりました。
- 4 Berger Nippon Paint Automotive Coatings Private Limited、Nippon Paint (India) Private Limited、Nippon Paint Automotive Europe Gmbh、Nippon Paint Automotive (France) SAS、Nippon Paint Automotive Coatings (Czech) Co., Ltd. 及びNippon Paint Automotive (UK) Ltd. は、2021年8月27日に当社の子会社から、役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社に変更となりました。

(2) 関連当事者に対する債権

(単位：百万円)

種類	名称	債権	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
役員及びその 近親者が議決権 の過半数を所有 している会社	Berger Nippon Paint Automotive Coatings Private Limited	受取手形及び売掛金	126	181
		未収入金	228	22
	Nippon Paint (India) Private Limited	受取手形及び売掛金	540	515
	Nippon Paint Automotive Europe Gmbh	受取手形及び売掛金	30	31
	Nippon Paint Automotive (France) SAS	受取手形及び売掛金	26	26
	Nippon Paint Automotive Coatings(Czech) Co., Ltd.	受取手形及び売掛金	16	19
	Nippon Paint Automotive (UK) Ltd.	受取手形及び売掛金	854	713

(注) 1 取引条件及び取引条件の決定方針等

取引金額の決定については、第三者との取引を勘案し、決定しております。

2 関連当事者に対する債権について、前連結会計年度及び当第1四半期連結累計期間において認識された費用はありません。

3 Berger Nippon Paint Automotive Coatings Private Limited、Nippon Paint (India) Private Limited、Nippon Paint Automotive Europe Gmbh、Nippon Paint Automotive (France) SAS、Nippon Paint Automotive Coatings (Czech) Co., Ltd. 及びNippon Paint Automotive (UK) Ltd. は、2021年8月27日に当社の子会社から、役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社に変更となりました。

(3) 関連当事者に対する債務

(単位：百万円)

種類	名称	債務	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
役員及びその 近親者が議決権 の過半数を所有 している会社	Wuthelam Holdings Limited	未払配当金	10,499	11,159
		Nippon Paint (India) Private Limited	支払手形及び買掛金	34
	Nippon Paint Automotive Coatings(Czech) Co., Ltd.	支払手形及び買掛金	20	77
	Nippon Paint Automotive Europe Gmbh	支払手形及び買掛金	—	12

(注) 1 取引条件及び取引条件の決定方針等

取引金額の決定については、第三者との取引を勘案し、決定しております。

2 Wuthelam Holdings Limitedは、2021年1月25日に当社の親会社となりました。

3 Nippon Paint (India) Private Limited、Nippon Paint Automotive Coatings (Czech) Co., Ltd. 及びNippon Paint Automotive Europe Gmbhは、2021年8月27日に当社の子会社から、役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社に変更となりました。



## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年5月13日

日本ペイントホールディングス株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人  
大阪事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 田 中 基 博

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 竹 下 晋 平

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 久 保 田 裕

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本ペイントホールディングス株式会社の2022年1月1日から2022年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2022年1月1日から2022年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2022年1月1日から2022年3月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び要約四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、日本ペイントホールディングス株式会社及び連結子会社の2022年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 要約四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査委員会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における執行役及び取締役の職務の執行を監視することにある。

## 要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手

続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

**【表紙】**

**【提出書類】** 確認書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の8第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 2022年5月13日

**【会社名】** 日本ペイントホールディングス株式会社

**【英訳名】** NIPPON PAINT HOLDINGS CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 取締役 代表執行役共同社長 若月 雄一郎  
取締役 代表執行役共同社長 ウィー・シューキム

**【最高財務責任者の役職氏名】** 該当事項はありません。

**【本店の所在の場所】** 大阪市北区大淀北2丁目1番2号

**【縦覧に供する場所】** 日本ペイントホールディングス株式会社 東京本社  
(東京都中央区京橋1丁目7番2号ミュージアムタワー京橋)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

取締役 代表執行役共同社長 若月 雄一郎及びウィー・シューキムは、当社の第197期第1四半期（自2022年1月1日 至2022年3月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。